

鍾乳洞を流れる地下川の源をめざし、 岩を乗り越え、川を遡り、真の闇を体感する… 本物の洞窟探検がここにある。



『玉泉洞』について

珊瑚礁の海に囲まれ、亜熱帯の島々が連なる沖縄には、600カ所以上の鍾乳洞が存在します。そのなかで最も巨大な鍾乳洞が「玉泉洞」です。玉泉洞の最初の探検・調査は愛媛大学学術探検部により行われました。1967年から8年間かけて行われた探検・調査により、玉泉洞は全長5,000mの大洞窟ということが明らかになりました。現在、玉泉洞は5,000mのうち890mを観光洞エリアとし、残り4,000m以上を研究用の未公開エリアとして保存しています。

沖縄の洞窟の特ちょう

サンゴ礁から生まれた鍾乳洞

サンゴ礁由来の琉球石灰岩にできた沖縄の鍾乳洞。美しい鍾乳石や迫力ある巨大な鍾乳石がいたるところにみられ、亜熱帯の鍾乳洞ならではの景観が広がります。

快適な気温、水温

鍾乳洞の気温はその土地の年間平均気温とほぼ同じ。洞窟に流れる地下川をザブザブ進む、亜熱帯の鍾乳洞だからこそその体験が楽しめます。

洞窟にすむ生きもの

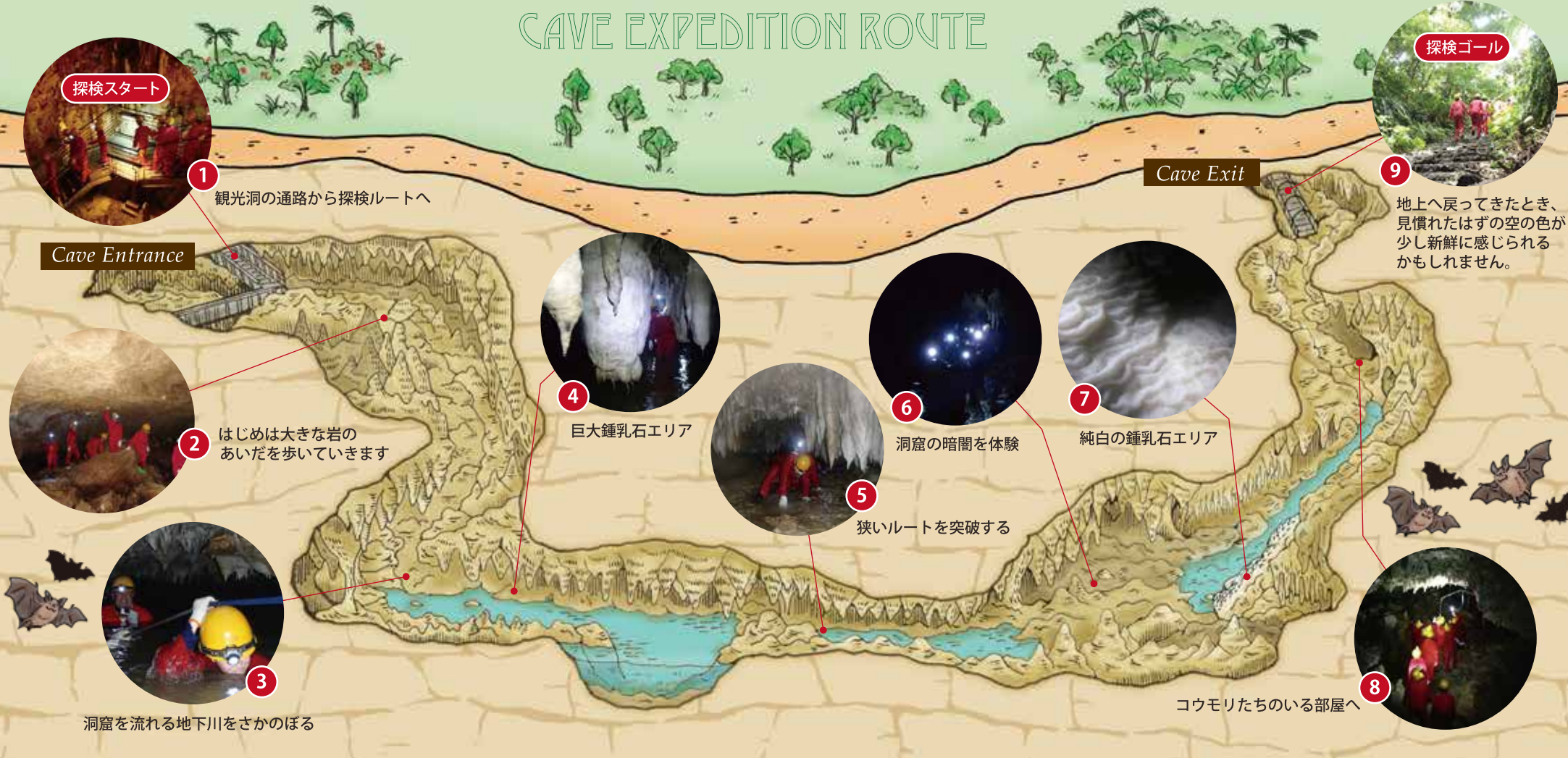
絶滅危惧種に指定されているオキナワコキクガシラコウモリなど、亜熱帯の島特有の貴重な生きものが生息しています。

洞窟探検とは？

洞窟探検はケイビング(Caving)と呼ばれ、洞窟探検家のことをケイパー(Caver)と呼びます。19世紀終わりにヨーロッパで盛んになり、今では世代を問わず世界中の人々が楽しむスポーツです。またケイビングのフィールドである洞窟は、地質・地形・水文・生物・考古・人類など様々な学問のフィールドでもあり、洞窟の神羅万象を明らかにする学問を洞窟学(Speleology)と呼んでいます。ケイビングの魅力を一言で表現するなら「未知なるものへの探求」です。地理的探検の時代は終わったと言われる現代、地上に残された最後のフロンティアが「洞窟」です。洞窟には人間自らの足でしか辿りつけない世界が残されています。人跡未踏の地を探検したいという欲求、それは生まれながらにして備わる人間の特性の一つなのかもしれません。



CAVE EXPEDITION ROUTE



鍾乳洞のできかた

『鍾乳洞』とは石灰岩にできた洞窟のことである。地面に降った雨水は、地下水となり地中の石灰岩の隙間を溶食・侵食し、数千年以上かけて洞窟を形成する。

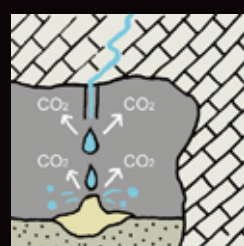


① 雨水は石灰岩の小さな割目から地下へと流れる。
② 地下では雨水が集まり、地下水が網目状に広がると、そこに洞窟が形成する。
③ 地下水流の水位が下がると、洞窟に鍾乳石が形成する。

鍾乳石のできかた

地上に降った雨水は、空気や土の中の二酸化炭素を取り込んで弱酸性になると、地中の石灰岩を溶かしながら、地下水となって洞窟の天井や壁面にしみでてくる。

地下水には二酸化炭素のほかに石灰岩由来の炭酸カルシウムも溶け込んでいるが、洞窟内の二酸化炭素分圧の影響で地下水から二酸化炭素が脱気されると、炭酸カルシウムが晶出・沈殿し、洞窟の天井・壁面・洞床には多様な鍾乳石が形成する。



鍾乳石の種類

